

<大学受験でなぜ2年も3年も予備校にいて成績が上がらないのか？>

メモ-----

- ✓ わっきー自己紹介（貧乏な家で育って、お金がなかった。明治、青学とか、高三で受けた大学は全滅、自宅浪人。勉強法を身につけた結果、5月の模試で超良い成績を出した。7月以降はほとんど勉強せず、ダラダラしていた。5月まではめちゃくちゃ勉強して、成績を上げるために必要なことを見極めた上で勉強したから成績は跳ね上がり、そこから落ちなくなった。慶應特化型で、勉強法にとっても詳しい。どうやったら成績が上がるのか？を手取るようにわかる。（→実績、興味付け、憧れ、この人何者？）
- ✓ なぜ成績が上がらないのか？→内容が難しすぎるから。例えば大手予備校の〇〇コース。「やってればついていけるようになるよ。」と言っているが、「いや無理だから！」。っていうのが、僕のスタンス。大手予備校の授業は、もともと偏差値60超えてて、Marchはいける人が、そこから早慶目指すっていう人向け。大手予備校の授業受けたら分かるけど、初めからめちゃくちゃ難しい。色んな予備校のテキストを見ているが、めっちゃ難しい。予備校の英語の先生は、もともと英語が大好きで講師をやっている。だから、マニアックな内容とか入ってしまって、受講生に負荷をかけている。当たり前だが、全然できない人に難しいことをやらせたところで、出来るようになるわけではない。（→仮想敵をディスる。「どうして頑張ってるのに結果が出ないんだー」って悩んでいる人に対して、「そうだったのか！」っていう納得感と自分を肯定できる材料を与えてあげる。出来ない受験生の心の声を出す（「最初から超難しい」、と言われると、「やっぱりそうだよな」）って思う。英語好きが英語を教えているのがいけない、と言われると、確かに、と思う。）
- ✓ フランス語の例。フランス語をできない状態で、フランス語の映画を100回見せたところで、フランス語ができるようになるイメージは湧かない。まず、アルファベットや基礎的な文法とかを覚えるべきで、それができていない状態でいくら長文読解とかやらせても、「いや、無理でしょ」って感じだと思う。わっきーは長文読解はやっていない。でも、これが大手予備校の実態で、こんなことを続けていても、このままでは終わった、な状態になるのは目に見えている。基礎ができていないのに、応用問題をやっても意味がない。（→恐怖を煽る。常識破壊（長文読解やらなくて受かるの？）。フランス語の例による知識人ブランディング。）
- ✓ わっきーは塾を経営してるが、昨年も偏差値40から早慶、つくば、などへの合格者実績をたくさん出している。偏差値40から、うちに入ったことで伸びた実績が数十件あ

る。(具体例を挙げる) なぜこれができるかというと、どうすれば結果が出るかが、手
に取るようにわかっているから。「プランとか、順番」に価値がある。例えば、小学生
に慶應目指すなら中学校レベルからやる必要あるけど、ただただ無目的に中学レベルの
英語を勉強しても意味がない。「順番があるし、やり方がある。」慶應に受かってる人
間は、英単語とか文法は一定のレベルにきている。やり方が違う。英語できる人が言っ
てくるのは、英字新聞読め、とか、映画見ろとか言ってくる。できないことをやっても
無理、できることをやらないと。(→恐怖を煽り、問題意識を持たせた後で、わっきー
の塾の実績を出す。わっきーの塾で結果が出せる理由(順番、やり方)を見せて興味付
けする。)

- ✓ でも、これが多くの予備校で行われていること。先生が何を言っても、受験生の頭の中
では飛散しちゃって「何言ってるんだろう」ってなる。わっきーが体験に行った時の
話。何言ってるかわからない、少しはわかるし、「面白かったな〜」感はある。勉強し
た気になる。テレビを見てる感じ。池上彰さんの知識を得て、面白かったという感はある
けど、じゃあ身につくのかとか、使えるようになるかという、甚だ疑問。
(→再度大手予備校の問題点を指摘してディスる。塾の体験授業に行った経験と、そこ
で感じたことを例に出す。池上彰の例はわかりやすい。多くの受験生が塾に行って感じ
ているであろうことを言う。面白かったな〜感はあるけど、身にはついていない。これ
はテレビ見てるのと同じことだったのか!となって焦る。)
- ✓ 「復習すればいいんじゃないの?予備校も使い方なんじゃないの?」という考え方もあ
る。しかし、カリキュラム的に、そもそも予備校の授業はダメな人ができるようになる
場所ではない。構造的な問題、欠陥がある。塾というのは、サプリのよな、補助的な
場所。偏差値 40 くらいの人が、心機一転して大手予備校に行くのは、リスクが高い。
(→視聴者が思っているであろうことを取り上げて、否定する。勘違いを是正する。そ
もそもカリキュラムが出来ない人向けではなく、構造的な問題があることを指摘する。
その上で、偏差値 40 くらいだけど大手予備校で頑張ればいいんじゃないかと思ってい
るひとに、リスクが高い、と警告する。)
- ✓ お金は将来稼げばいいけど、問題は時間。一浪して大手予備校入りました、全然伸びま
せん、9月10月になっても結果出なくて、「わっきー助けてください」と言ってくる人
が毎年たくさんいる。そこから間に合う人もいれば、間に合わない人もいる。大手予備
校でわけわからん勉強をやらされて、時間をロスする。例えば、現代文。本科行ってる
と4月5月から理社をやらされるんだけど、そんなことやってる場合じゃない。なん
でそうなるんだ。重要なことをやろうよ。平等に各科目に時間が割り振られて。でも古

文やらずに受かった人たくさんいる。わっきーがやったのは、英語と社会できるようになったので受かった。(→お金は取り返せるけど、時間は取り返しがつかない、という教育。常識破壊。大手予備校で行われている「全科目均等に時間を割り振る」という事例を、具体例を挙げて否定する。「そんなことをやってる場合じゃない」と言われると、「え、今まさにそんな感じだけどやばいの？」と更に恐怖を煽られる。)

- ✓ 慶應大学は、入ってしまえば、世の中からの評価は高いし就職活動でも有利。慶應は、小論文簡単。小論文だって、型が決まっている。他の科目も型が決まっている。ただただ量をこなすのは、自分のようなバカな人間にはつらい。それが出来ないから困ってるじゃん。(→慶應に入ることのメリット。型を知っていればバカな人間でも結果は出せる、ということを伝える。量をこなせなくて悩んでいる人に刺さるし、希望が持てる。)

- ✓ 某大手予備校に行った知り合いは、落ちた人の方が多い。E ランク D ランクくらいの大学に行ってしまった人は、真面目で努力家な人が多い。「真面目で努力家なのにも関わらず伸びないってど一ゆうことだ、ふざけんな」って思う。受験生時代に恐怖だったのは、「受からなかったらどうしよう」、という恐怖。でも、わっきーは結果が出るやり方を知ってたから恐怖はなかった。受からないわけがないと思っていた。で、5~6月くらいまで勉強して最強の状態だったので、それ以降はあまり勉強しなかった。3、4、5月は勉強した。東日本大震災の時だったから、遊ぶ感じでもないし、勉強してた。「真面目で努力家だったら受かるうぜ」って思う。真面目で努力家なのに、滑り止めにすら落ちた、という事例が結構あって、そういう状態ってなんとかしたいと思った。だから、ちゃんとした学習環境、カリキュラム、学びが得られる場所を作りたいと思って、塾をやっている。不真面目で遊んでいる人が結果でないのは知ったことではないけど、真面目に頑張っている人には報われてほしい。真面目一辺倒だけが魅力的というわけではないけど、真面目は人間の魅力の一つ。真面目に容量のよさを身につけて、受かっていくのは良いことだ、と思っている。(→真面目に頑張ろうとしている人を肯定する、そういう人が結果が出ないことに対して怒りを見せることで、見た人がファンになる。この人は自分の味方だ、自分のことを分かってくれている、と感じる。希望を持たせる、付いていきたい人になる。受験生がみんな感じている「落ちたらどうしよう」という恐怖に言及して、正しい勉強法を知れば恐怖から解放される。ということを教育する。恐怖を与えて、その上で免罪符を見せる。)

- ✓ でも、大手予備校は効率が悪すぎる。「無理ゲーを教えるんじゃない」、と怒りを感じる。予備校で成績上がる人もいるけど、すごく少ない、大手予備校で結果が出せるのは、もともと出来る人。わっきーが誇れるのは、本当に偏差値が低い人たちが上がっていくの

が、本当に誇りだと思う。(youtube、LINE@の宣伝をさらっと入れる。) それにしても、型がある、パターンが決まっている、というのはめっちゃくちゃ強い。勉強にはパターンがあって、型がある。どのような順序・どのようなやりかた・どのようなメンタルコントロールが非常に効率がいいのかはある程度決まっている。そこから大きく外れると、受かるものも受からない。50、60だと march きつい。65、68 を越えていかないと march きつい。10回やったら7回、8回は受かる、という状態じゃないと安心感もない。メンタルが安定するのもすごくよくて、わっきーが脳科学とか心理学とか学んだ上で作っている。しんどくない人は全然OK、だが、今しんどい人には興味を持ってほしい。正しい勉強法でやっていれば、1ヶ月後、2ヶ月後しんどくないと思うけど、正しくない勉強法でやっている、1ヶ月後も2ヶ月後もずーっとしんどい。(→再度大手予備校をディスリ、大手予備校で結果を出せるのは、もともと出来る人だけだと伝える。わっきーの塾の実績と宣伝。型があることのメリットを教育し、型の内容とそこから外れると受かるものも受からない、と再度恐怖を与える。安定的に結果を出せるようにしておくことで、精神的にも楽になれる、逆に、それができないと今後もずっとしんどい、と煽る。)

- ✓ わっきーがどうして受かったのか？それは、勉強法に詳しくあったから。たまたますごく良い本に巡り合ったから。「これすごく良いんじゃない？」って思った部分と、他に読んだ本の組み合わせ。後輩に教えて、慶應の後輩になって一緒にラーメン食べたりとか、そういうのいいな、と思って。慶應の三田キャンパスに塾がある。動画を取っている理由を、3年塾に通っていた知り合いの話を引き合いに出して説明。学校とか予備校は結局補助。どうしたら上がるか、という根本は教えてもらえない。予備校の先生は、英語の先生なら英語が好きな先生であり、数学の先生なら数学が好きな先生。これが問題。
(→動画を撮る理由を前向きに説明すること、慶應のすぐ近くに塾があることを話して、信頼を得る。再度大手予備校の問題点をおさらい。)
- ✓ 受験生時代は、勉強して楽しいと思ったことは一度もないが、上がるから楽しい、と思った。わっきーの強みは、もともとできない(偏差値30)。からの工夫して成績をあげた。決して受験勉強が好きではない。というところ。いかに小狡く受かるか、を死ぬほど研究した。勉強が嫌いだったからこそその工夫。結局楽しくなるけど。受験勉強なんて、伸びれば楽しいし、伸びなきゃつまらない。ここのコントロールが予備校はできない。うちの塾生は楽しそうにやってる。学校の先生は、勉強してなさすぎ。特化型すぎて、面白い数学は教えられても、伸びる数学は教えられない。英語の教科書読んでる先生で、先生いらなくない？」って思った。なんの存在価値があるんだよっていう。
(→大手予備校の問題点を挙げた上で、わっきーの強みを伝える。多くの受験生が思っ

ているであろうことを言って、勉強が好きではない自分にこそ、この塾がピッタリなんじゃないかと思わせる。)

- ✓ まとめ。動画のタイトルである、「なぜ予備校に行っても成績が上がらないのか？」の結論。→構造的に上がらない環境だから。2年も3年も行っただけで上がるわけない。最初の1~2ヶ月で上がらなければ、かなり希望がない。なんなら、1週間、2週間で上がるから。全科目バンバン上げてこうぜ。
(→最後のまとめ。わっきーの塾なら、1週間、2週間でもちゃんとやれば効果を感じる。ハードルを下げる、希望を持たせる、その気にさせる、で終わり。)

感想-----

- ✓ これはエグい動画だなーと思った(笑)まさに受験生への一撃必殺コンテンツ。創世記で学習したことが凝縮されている。「相手を批判しない(で仮想敵をディスる)」、「ポテンシャルを褒めて、現状をディスる」、「欲情させる」という人を動かす三原則や、「扇動」の威力を感じた。この動画を見て、「ネットで女性に売る」という本の内容を思い出したのだけど、これを見た受験生はきっと、「魔法の馬車に出会ったシンデレラ」状態になるんだろうなって思った。こうやって人は新世界に移行するのか。ものすごい威力。
- ✓ 一番最初に実績を見せて、強烈に興味付けをする。これでもかというくらい、具体例を挙げてロジカルに仮想敵を批判する、受験生が思っているであろうことを言及して刺す、納得感を与える。「このままだとやばいよ」と恐怖を煽った上で、相手のポテンシャルを褒めて信頼を得て、ファンにする。37分間の中に無駄な要素がほぼなくて、なんだか芸術的ですからある(笑)
- ✓ コンテンツの構成という意味でも、「型」の使い方という意味でも、めちゃくちゃ勉強になりました。